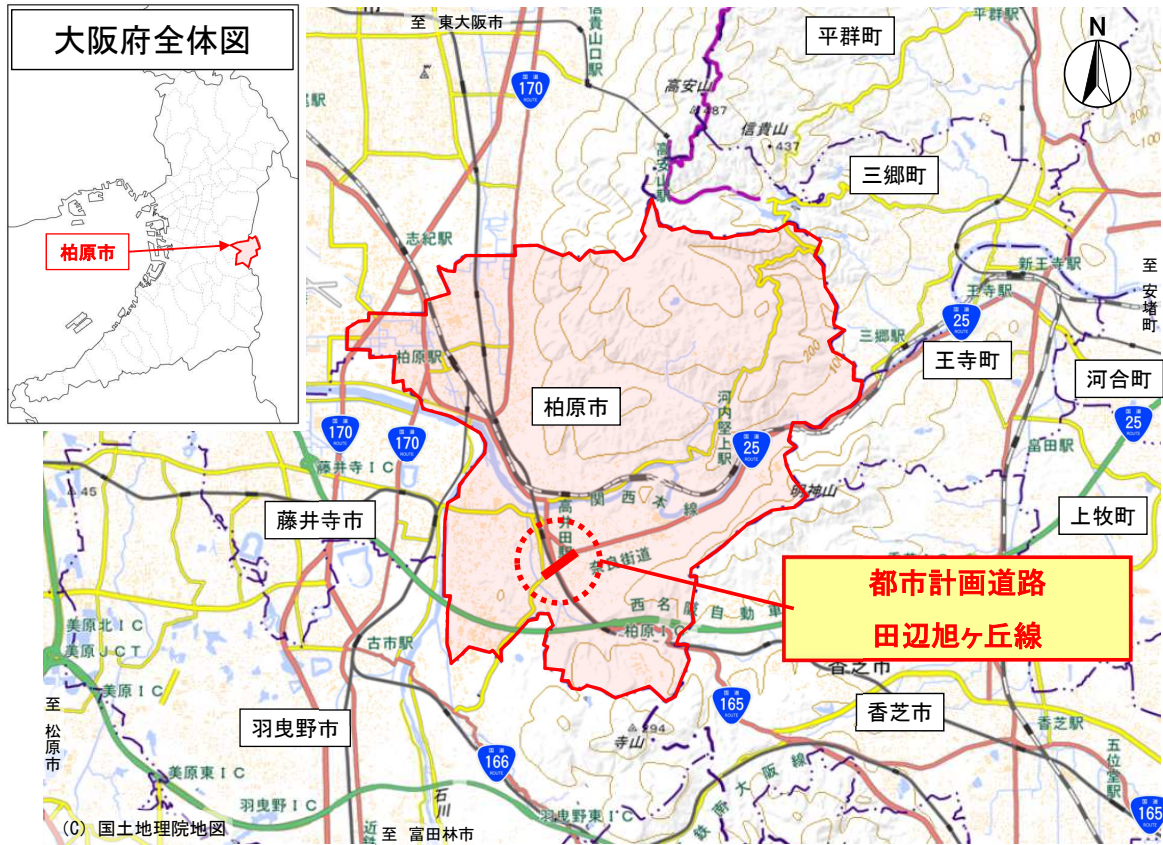




目 次

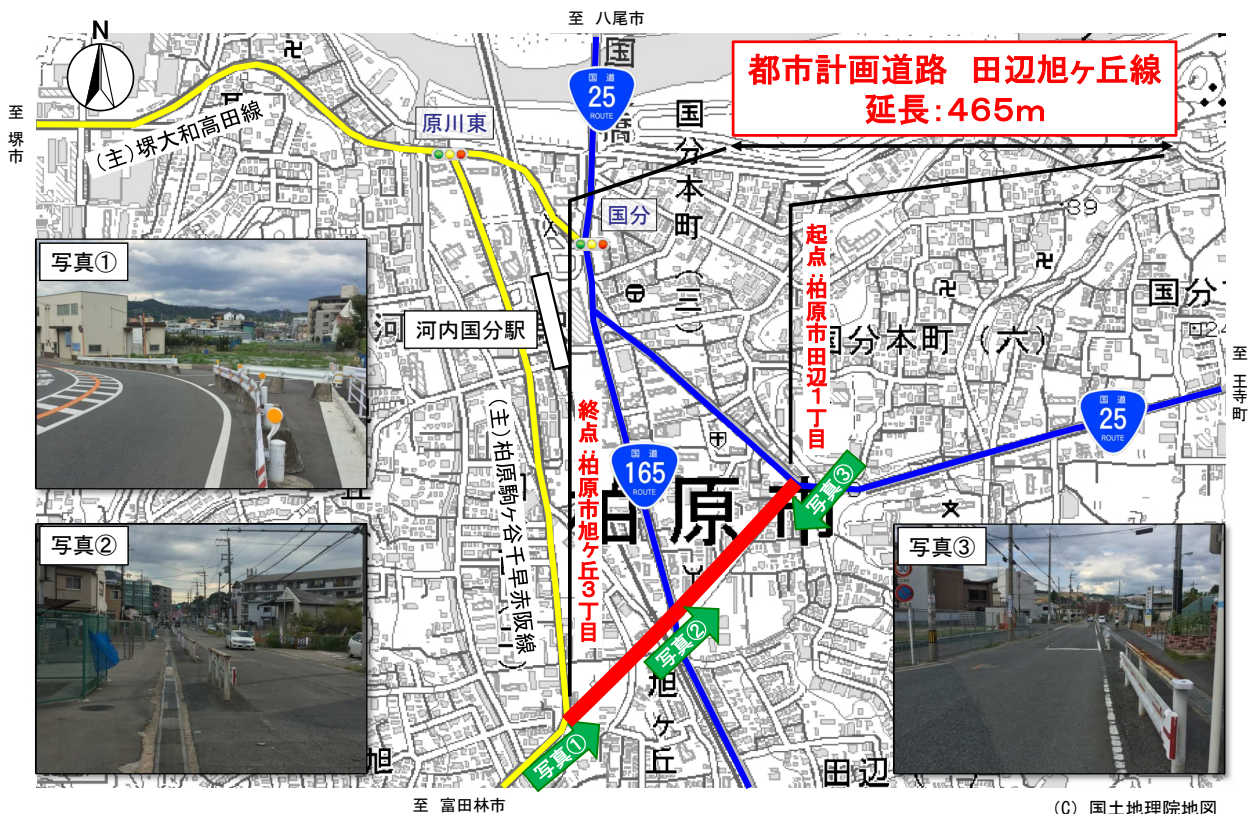
◆位置図	1
◆事業概要	3
◆事業の目的	4
◆事業の進捗状況	9
◆事業を巡る社会経済情勢の変化	10
◆コスト縮減や代替案の可能性	11
◆環境への配慮	12
◆費用便益分析	13
◆事業の進捗の見込みの視点	14
◆対応方針（案）	16

位置図①



1

位置図②



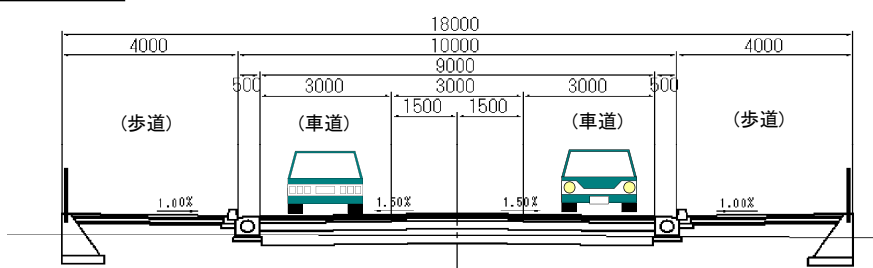
(C) 国土地理院地図

2

事業概要

- ◆起 終 点：柏原市田辺 1 丁目～柏原市旭ヶ丘 3 丁目
- ◆全体延長：4 6 5 m（うち高架部 2 9 0 m）
- ◆総事業費：約 3 7 億円
- ◆事業着手：平成 7 年度
- ◆幅 員：1 6 ～ 2 2 m

標準横断図



3

事業の目的①

◆慢性的な交通混雑・渋滞の緩和

【現状の問題】

- 国分交差点周辺は多方面の交通が集中し、著しい交通渋滞が発生
- 渋滞による速度低下が顕著であり、都市内や府県間の幹線道路としての機能が低下



○原川東交差点における渋滞長調査結果

【7時～13時】

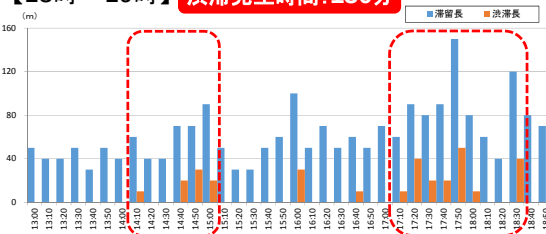
渋滞発生時間: 70分

(※南側流入部)



【13時～19時】

渋滞発生時間: 130分



※調査実施日：平成28年10月25日

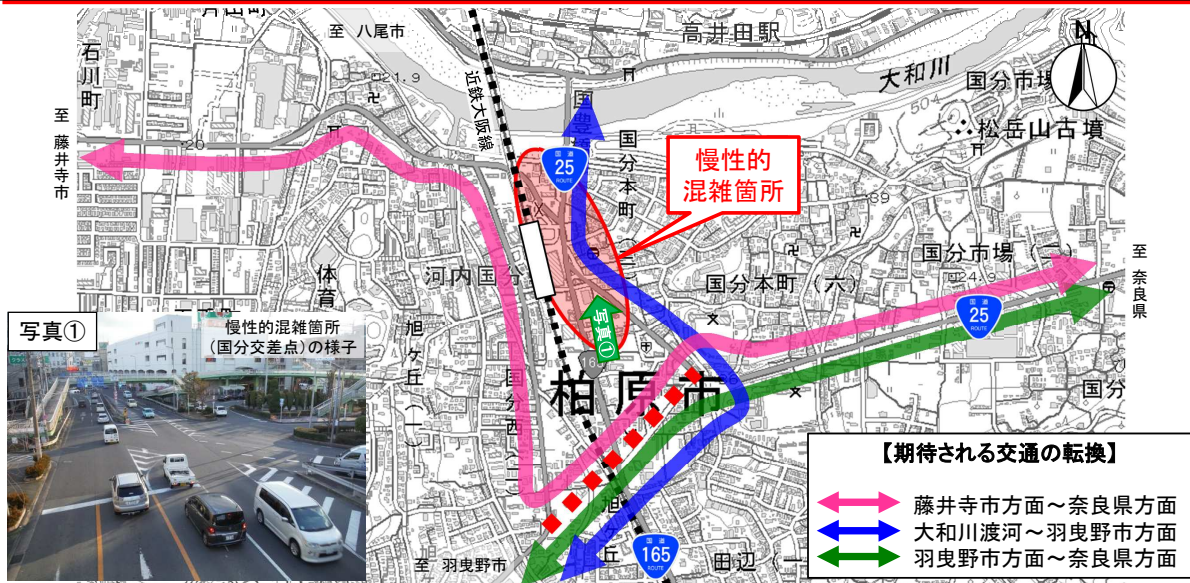
4

事業の目的②

◆交通の分散による通過交通の円滑化

【現状の問題】

- 近鉄大阪線により地域が分断されており、アクセス道路が限定的
- 複数の方面において、通過交通のボトルネックになっている
- 4.2mの桁下制限により、特殊車両にルート選定の余地がない



5

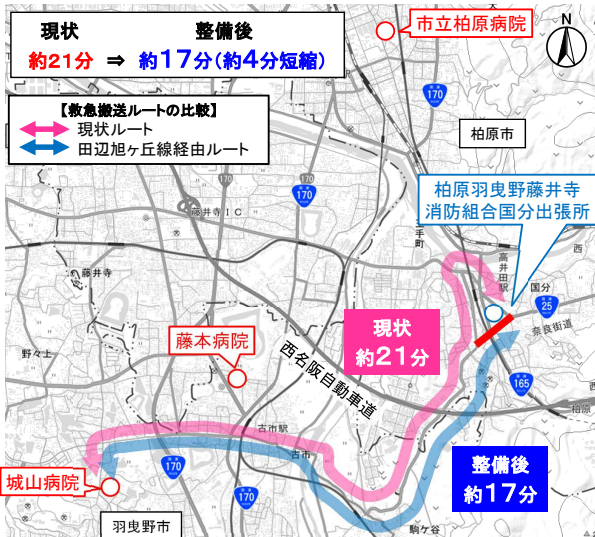
事業の目的③

◆救急車両の到達時間の短縮・アクセス性向上

【現状の問題】

- 心疾患や脳卒中が発症した場合は、市外の救急病院まで搬送が必要
- 渋滞により搬送時間にバラツキが生じ、迅速な救急活動を阻害

○救急搬送時の所要時間短縮効果



○柏原市周辺の救急医療期間別診療科目

・心疾患、脳卒中等の発症時は市外病院で対応

所在地	医療機関名	診療科目															
		内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科	外科	心臓血管外科	呼吸器外科	消化器外科	整形外科	形成外科	小児外科	小児内科	産科	婦人科	泌尿器科
柏原市	国分病院																
	市立柏原病院	○															
羽曳野市	島田病院	○	○				○				○						
	高村病院	○					○										
	丹比荘病院																
	藤本病院	○					○				○						
藤井寺市	田辺脳神経外科病院						○				○						

※出典：大阪府における保健医療体制(H27.12.16時点)

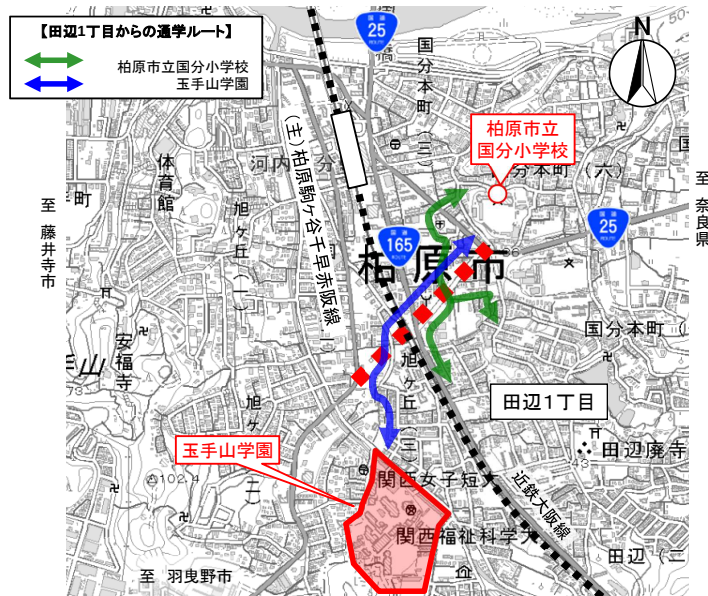
6

事業の目的④

◆安全・安心な歩行空間の確保

【現状の問題】

- 現道区間は片側のみガードレールで区切られているが歩道は未整備
- 道路を横断する通学児童や中高生の自転車が朝夕特に多い



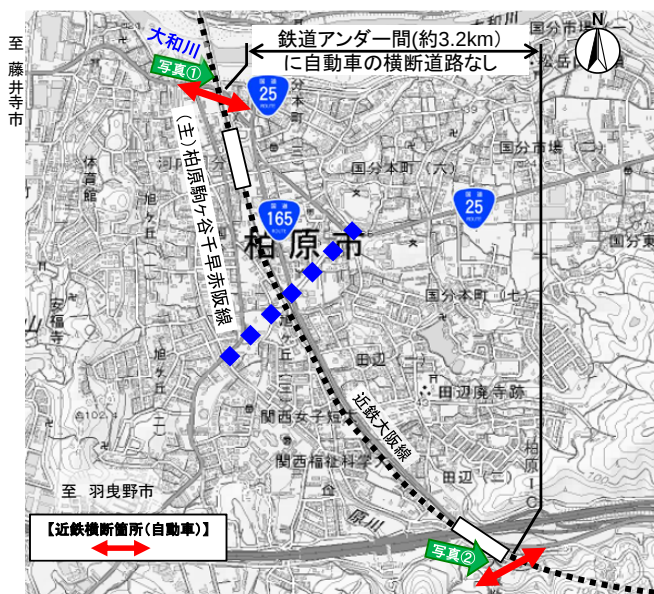
7

事業の目的⑤

◆災害発生時のネットワーク拡充

【現状の問題】

- 柏原市南部は近鉄大阪線で分断されており、自動車の横断道路は2箇所のみ
- 横断道路が豪雨等による冠水で通行止になる恐れもあり、地域分断を防ぐネットワークの多重化が必要



8

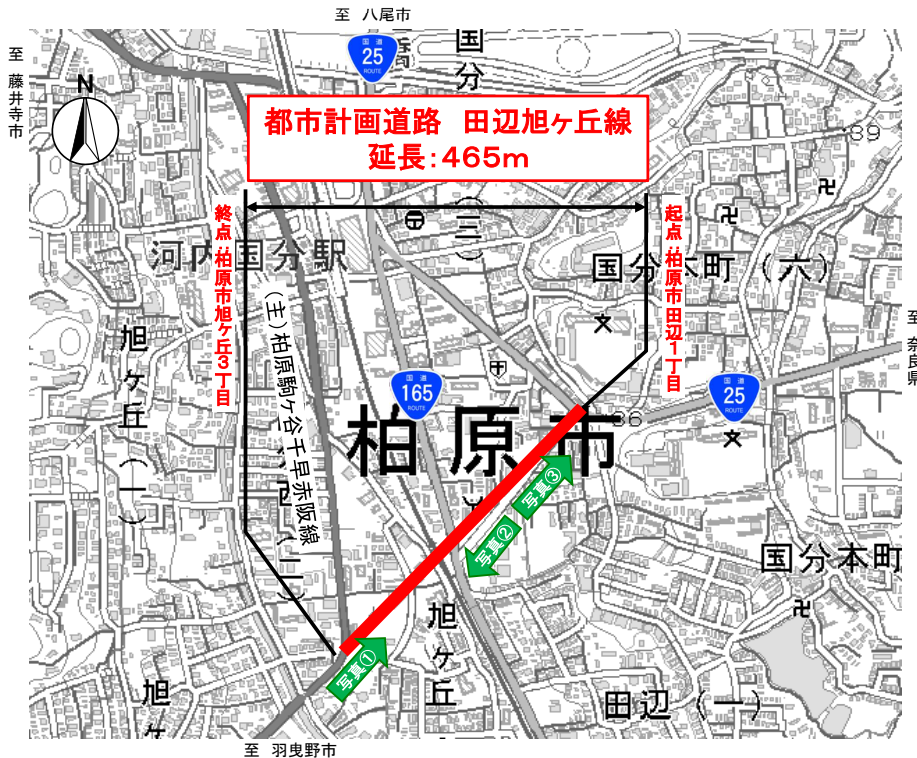
事業の進捗状況

全体進捗率 52% ※

用地補償進捗率93% ※

工事進捗率 0% ※

※ 平成28年度末事業費ベース



9

事業を巡る社会経済情勢の変化

◆上位計画や周辺道路整備と合わせた事業の推進

【現状の問題】

- 医療サービス享受のための交通体系や日常利便性の確保が課題
- 国や県の事業の推進と合わせ、面的な道路網の整備が必要

○柏原市都市計画マスタープラン

◆都市づくりの基本目標

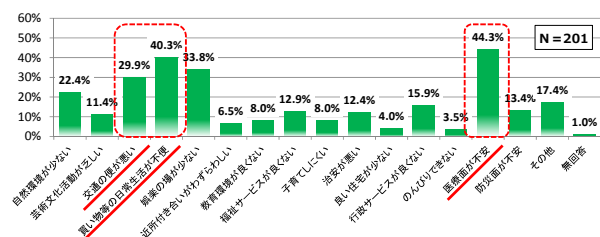
- ・誰もが安心して歩ける生活道路の整備や歩行者空間のバリアフリー化
- ・府県境を越えた快適に移動できる広域ネットワークの充実や公共交通機関の利便性向上、安全性の高い基盤整備

◆交通施設の整備方針

- ・近鉄大阪線を挟んだ両側を結ぶ道路等の地域間交通網の整備が必要
- ・都市計画道路は、社会経済情勢を踏まえ、必要性や実現性について総合的に整理し、真に必要な道路を整備

○第4次柏原市総合計画策定に係る市民意識調査

◆柏原市に住みにくと感じる理由



○大阪国道事務所における事業の推進

◆国道 25号 柏原市国分本町自歩道整備



田辺旭ヶ丘線を幹線道路として
位置づけ、その整備推進を図る

※出典：柏原市都市計画マスタープラン(H24.3)

※出典：平成28年度事業概要(大阪国道事務所)

10

コスト縮減や代替案の可能性

◆近鉄大阪線との交差構造形式の検討

- 走行性、問題点、費用対効果、施工性等から構造形式を検討
- 走行性、費用対効果が高く、施工性にも優れる高架案を採用

比較項目	高架案	地下道案	鉄道の高架化案	平面交差案
車の走行性	見通しがよく走行性・快適性が高い	トンネル構造は圧迫感が強く快適性が低い	全て平面道路となり、良好	全て平面道路となり、良好
都市計画決定上の問題点			・連続立体交差の都市計画決定はされていない ・幅員22mの区間で既に取得済の用地が不要となる	・都市計画決定された構造形式及び幅員の決定思想と不整合 ・幅員22mの区間で既に取得済の用地が不要となる
計画上の問題点		・明石戸水路のサイホン化が必要 ・土被りが浅いため、特殊な推進工法となる ・アンダー部の排水ポンプアップが必要となり、維持管理費が高い	・連立の側道用地がない ・国分駅舎の大幅改良が必要等、様々な問題点あり	・近鉄大阪線に新たな踏切を設置することは困難 ・新たな踏切が事故発生源になり得る ・バイパスとしての機能が果たせず、費用対効果が著しく低い
概算工事費	607,600千円	1,652,600千円	数百億円オーダーの事業費	平面街路築造のみのため、最も安い
費用対効果	○	△	×	×
維持管理	○	×	○	○
施工性	地下道案より工期が短く、工法的にも容易	・工法的に困難 ・工事費が高架案の倍以上	・非常に長い工期が必要 ・工法は大変困難	・施工は容易
判定	○	×	×	×
備考	便益が大きく、市の財政的負担が少ない	冠水の懸念がある	実現性が低い	実現性が低い

11

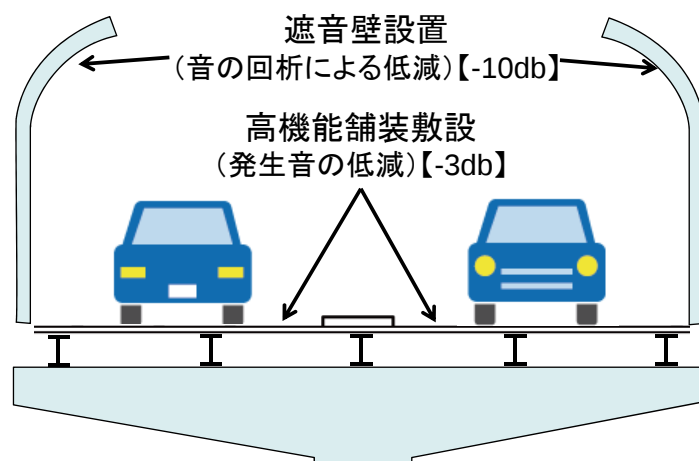
環境への配慮

◆遮音壁及び高機能舗装による騒音対策

【対策内容】

- 近鉄大阪線高架部等において高機能舗装敷設及び遮音壁設置により、沿線地域への影響を低減

○騒音対策実施による環境への配慮



※出典:道路整備効果事例集(国土交通省 道路局)

12

費用便益分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 総便益の約74%
- 走行経費減少便益 総便益の約20%
- 交通事故減少便益 総便益の約6%

費用便益比（B/C）

$$\frac{\text{総便益（B）}}{\text{総費用（C）}} = 2.14 \text{（全体）}$$

※総便益（B）＝走行時間短縮便益＋走行経費減少便益＋交通事故減少便益
 ※総費用（C）＝事業費＋維持管理費

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

13

事業の進捗の見込みの視点

◆市民のニーズが高い生活道路と広域的な交通網

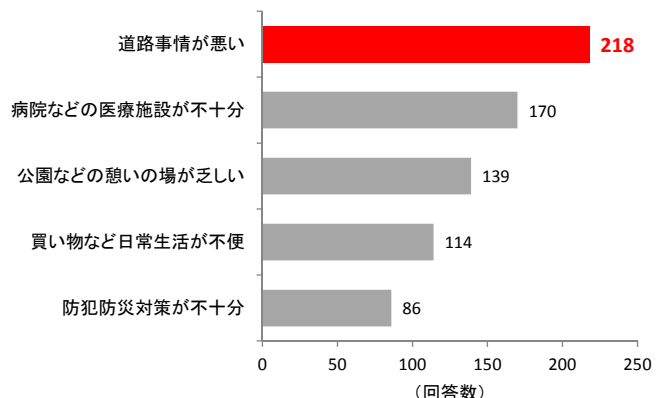
- 満足度は低いが重要度の高い行政サービスの第1位は「生活道路」第4位に「交通網」と道路事情に関するサービスが上位にランク
- 市民は道路事情の改善が必要との意識が高い

◆満足度が低いが重要度が高い行政サービス

ランク	行政サービス	満足度 (平均3.18)	重要度 (平均4.22)	乖離 (満足度-重要度)
第1位	生活道路	2.89	4.55	-1.66
第2位	医療体制	3.10	4.69	-1.59
第3位	財政運営	2.84	4.38	-1.54
第4位	交通網	2.87	4.39	-1.52
第5位	計画的な土地利用	2.80	4.24	-1.44

※柏原市の41の行政サービスのうち、上位5位を掲載
 ※満足度および重要度は、各行政サービスについて、5段階評価を実施。表中に、その平均点を記載。
 ※ランクは、満足度と重要度の平均点の乖離が大きい順

◆柏原市の改善が必要なところ(トップ5)



※出典：柏原市市民意識調査集計結果（平成28年2月）

14

事業の進捗の見込みの視点

【行政サービスに対するニーズと課題】

- 早急なニーズへの対応には、集中的な事業への投資が必要であり、財政面が課題となる
- 広域的な交通網と生活道路の両方ともニーズが高い
- より効率的、効果的な事業の進捗が求められる

◆歩道設置に伴う安全・安心な歩行空間の確保

◆西側区間の道路整備による沿道機能向上

◆西側区間の整備により、歩行者・自転車の東西アクセスが向上し、生活利便性の向上及び地域間交流の活性化を図る

段階的な整備においても、効果を発現

15

対応方針（案）

○行政サービスに対する市民意識において、道路事情改善のニーズが高まっている。
事業の完成は、渋滞緩和、交通の円滑化、
良好な生活環境の確保、防災など、柏原市及び周辺
地域の発展に大きく寄与する。

○段階的な整備においても、歩行者等を中心とした
ネットワークを形成し、事業効果を発現させる。



＝事業継続＝

16